

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興會

## 水族館月報

No. 92

1960. 4月(5月5日)

### 録 事

月報は本号をもって第8年団に入ることとなった

水族館は本年に入って、入場者は毎月2万名宛と轆上りに増加してきた。白浜をはじめ紀南観光地の躍進ぶりは図をみはらされ、白浜の旅館は軒並みに増築を始め、鉄筋4・5階建の立派な建築も見られる。昨年度白浜を訪れた観光客120万人は今年度になると更に10万人はふえる見込みで、いよいよ水族館の改築は焦眉の問題となってきた。

雑賀氏宅より譲りうけたゴム・マサキ・松樹等を構内に植栽すると共に、北側海岸に防風林用に昨年植えた松苗の枯れた分をも補って数十本の苗を補植した。

山路委員は日本海洋学会年次大会に出席講演のため4日東京、13日帰任した。

4月1日より稲垣弘を技術見習として採用した。

## 業 務 概 況

### ◎ 4月の入場者数

区 分	大 人		小 人		合 計	
	本 月 分 計		本 月 分 計		本 月 分 計	
水族館発売	個人	12095	977		13072	
	団体	24114	—		24114	
交通公社発売	10367		—		10367	
明光バス発売	34291		1190		35481	
合 計	80867		2167		83034	
無 料	町内小学校児童、幼稚園児等			135		

団 体：一般 327組, 学生 27組 合計 354組

### ◎ 4月の事業収入

観覧券売上金	835,777
┌ 窓口発売	653,545
└ 交通公社クーポン	182,232
└ 明光バス観光券	— ※
予金・積立金利息	4881
手 数 料	28,806
絵はがき掛 下	33,920
パンフレット掛下	9,050
魚 類 掛 下	—
雑 収 入	40
合 計	912,474
※ 明光バス観光券不収分	大人券 41235枚 小人券 1875枚

### ◎ 4月の支出

#### 水族館経費

費 目	金 額	備 考
人 件 費	102398	
会 議 費	—	
備 品 費	300	
消 耗 費	25780	
事 業 費	45855	
維 持 費	1000	
其 他 諸 費	36148	火災保険料、観覧花見費用
積 立 金	310397	
合 計	521878	

実験所経費

費 目	金 額	備 考
研 究 費	22,125	山路委員
奨 学 金	—	
備 品 費	4,620	図書
消 耗 費	—	
刊 行 費	—	
役 務 費	—	
合 計	26,745	

伝物館経費

費 目	金 額	備 考
人 件 費	36,730	
備 品 費	—	
消 耗 費	—	
役 務 費	—	
合 計	36,730	

臨時費

支出なし

支出合計

水族館経費	521,878
実験所経費	26,745
伝物館経費	36,730
臨時費	—
合 計	585,353

◎ 4月末現在高

今月の収入合計	912,474
今月の支出合計	585,353
現 在 高	327,121

◎ 前年度との比較

	1959	1960	増 減
入 場 者 数	61,362	83,034	+ 21,672

## 水族館記事

- ◎ 実験所附近の潮だまりにすむ小魚は4月に入って種類が豊富になってきた。なかでもとくに目立つようになったものはカゴカキダイ 0.5~30cm, ギンユゴイ 2~7cm, タカノハダイ 3~50cm, ニシキベラ 3~60cm, ホウボウ等で、これらを多数採集したので、潮だまりの小魚、の水槽はとてにぎやかになった。
- ◎ 11日にエボシガイが入槽した。ツボ網のウキの下数十握のロープに数十個体着生していたもので、NO.35水槽で観覧に供している。またアカフジツボが同日に約20個体入槽したので、NO.23水槽の丸バットに入れて飼育している。
- ◎ イセエビ類は4月30日で禁漁期に入るのので、今月は次のように購入した。
 

<u>イセエビ</u>	15個体	(	3月30日現在数	40個体)
<u>セミエビ</u>	10 "	(	"	29 "
<u>コブセミエビ</u>	6 "	(	"	12 "
<u>ソウリエビ</u>	24 "	(	"	96 "
<u>カノコイセエビ</u>	4 "	(	"	7 "
- ◎ 14日動物園下の潮だまりでゴイシウミヘビを採集したが16日死亡した。
- ◎ マツカサウオは今月中に5個体入槽したが餌は全く壊らない。このためか2月・3月に入槽した4個体は死亡した。
- ◎ 3日エビスタイが夜間に電灯をつけた時、おどろいて水槽から飛び出して死亡した。
- ◎ 30日オナカザメ1個体死亡。1月19日以来飼育していたもの。
- ◎ 採集が多くなるにつれて予備水槽の利用がたかまってきて、不足してきたので、NO.36~38水槽の下の予備槽をその目的に使うことにした。
- ◎ 4月30日現在、観覧水槽に収容飼育中の動物は総計183種、2018個体以上で、その内訳は次の通り。

カイメン類	3種、	ハナギンチャク類	1種、	ヤドカリ類	3種、
ヒドロムシ類	1 "	ホウキムシ類	1 "	カニ類	9 "
ウミトサカ類	3 "	多毛類	2 "	二枚貝類	4 "
ヤギ類	5 "	カフトガニ類	1 "	シャコ類	2 "
イソギンチャク類	9 "	エボシガイ類	1 "	巻貝類	7 "
イシサンゴ類	12 "	フジツボ類	1 "	アメフラシ類	11 "
スナギンチャク類	1 "	エビ類	8 "	タコ類	2 "

ウミンチ類	3種, ウニ類	10種, 軟骨魚類	4種,
ヒトデ類	4種, ナマコ類	7種, 硬骨魚類	60種,
クモヒトデ類	2種, ホヤ類	3種, カメ類	3種.

## 博 物 館 記 事

- ◎ 去る2月2日富田沖7〜8 遡水深600mの地帯で深海延縄で捕獲された巨大なカニを田辺の和可山水産試験場より寄贈された。同カニは全身短かい蟹棘におおわれ、紅褐色を呈し、甲長230mm, 生鮮時2Kg, 両側の肢を側方にのばして1.25mにも及ぶ巨大なもので、九州大学三宅舜祥博士の仮査定によれば、異尾因タテバカニ科の珍奇種 *Paralomis* に属する未記載種であろうとのことである。

## 資 料

- ◎ 4月の気象 (9時観測)  
南水槽室 (水温比重はN0.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (13)	2	5	6
室 温 (°C)	$\frac{12.2 \sim 16.4}{13.9}$	$\frac{13.9 \sim 18.0}{15.5}$	$\frac{14.8 \sim 20.8}{18.0}$
水 温 (°C)	$\frac{14.43 \sim 15.49}{14.87}$	$\frac{15.90 \sim 16.45}{16.09}$	$\frac{15.74 \sim 18.70}{17.52}$
比 重 (0 <sub>15</sub> )	$\frac{25.33 \sim 26.00}{25.60}$	$\frac{25.28 \sim 25.76}{25.57}$	$\frac{24.53 \sim 25.68}{24.99}$

取入口

水 温 (°C)	$\frac{15.10 \sim 16.21}{15.62}$	$\frac{16.31 \sim 18.38}{16.83}$	$\frac{16.55 \sim 19.46}{17.99}$
比 重 (0 <sub>15</sub> )	$\frac{24.89 \sim 25.89}{25.44}$	$\frac{24.51 \sim 25.78}{25.50}$	$\frac{24.85 \sim 25.57}{25.25}$

◎ イセエビ類の禁漁期間（5月～10月）の死亡記録

禁漁期にそなえての購入数の基準と飼育期間中にとくに死亡しやすい月をしらべる目的で1957年以降の死亡記録を調べた結果は次の通りである。

注) 死亡率 =  $\frac{5\sim 10\text{月死亡数}}{4\text{月末現在数}}$

1) イセエビ

	1957	1958	1959	合計
(4月末現在数)	(139)	(117)	(72)	(328)
5 月		5	5	10
6 月	6	6	9	21
7 月		4	7	11
8 月	18	6	5	29
9 月	23	11	5	39
10 月		7	4	11
(10月末現在数)	(92)	(78)	(37)	(207)
死亡数	47	39	35	121
死亡率(%)	34.1	33.3	48.6	36.9

2) カノコイセエビ

	1957	1958	1959	合計
(4月末現在数)	(5)	(12)	(7)	(24)
5 月	1	3		4
6 月		1		1
7 月		1		1
8 月	1			1
9 月		2		2
10 月		1		1
(10月末現在数)	(3)	(4)	(7)	(14)
死亡数	2	8	0	10
死亡率(%)	40.0	66.7	0	41.7

3) コアセミアビ

	1957	1958	1959	合 計
(4月末現在数)	(4)	(14)	(16)	(34)
5 月			1	1
6 月			1	1
7 月				
8 月				
9 月		1		1
10 月				
(10月末現在数)	(4)	(13)	(13)	(30)
死 亡 数	0	1	2+1*	4
死亡率(%)	0	7.1	18.8	11.8

4) セミアビ

	1957	1958	1959	合 計
(4月末現在数)	(51)	(52)	(40)	(143)
5 月	10			10
6 月	6	3		9
7 月	6	7	2	15
8 月		4	2	6
9 月		5		5
10 月	5	4	2	11
(10月末現在数)	(22)	(29)	(34)	(85)
死 亡 数	27+2*	23	6	58
死亡率(%)	56.9	44.2	15.0	40.6

5) ソウリエビ

	1957	1958	1959	合 計
(4月末現在数)	(146)	(162)	(114)	(422)
5 月	43	7	5	55
6 月	11	9	3	23
7 月	6	16	12	34
8 月	8	15	2	25
9 月	20	17	17	54
10 月	13	16	4	33
(10月末現在数)	(45)	(82)	71	(198)
死 亡 数	101	80	(43)	224
死亡率(%)	69.2	50.6	36.1	53.1

\* 不明死亡数

この結果からみると、<sup>10</sup>4月末現在数を4月末に同じくしようとすれば、それぞれイセエビでは約40%、カノコイセエビでは約45%、コアセミエビ約15%、セミエビ約45%、ゾウリエビ約55%の個体数を購入すればよいことになる。しかし、実際の購入に際しては、これより大きく厩積った方が安全と考えられる。とくによく死亡する月は、イセエビ 6月、9月、セミエビ 7月、ゾウリエビ 9月 であるからこの月は飼育に十分な注意を拂うことが必要と考える。

## 来 訪 録

4月6日 東京大学京天文台事務官 杉山恒夫氏 (水族館の運営調査)

4月28日 東京医科歯科大学生理学教室 勝木保次教授他4名 (海産動物の飼育管理方法の循環水槽の設計の研究と見学)  
と

昭和35年5月5日 (NO. 92)

編集兼  
発行者  
発行所

内海 富士夫

瀬戸内海実験所  
岡山県白旗町  
瀬戸内  
(Tel. 白旗 515)